

水沢高生と考える地域医療 市、出張懇談会

奥州

奥州市の「寄り添う奥州会議プロジェクト」の特別出張懇談会は20日、同市の水沢高

(菅野誠二校長、生徒688人)で開かれた。生徒は、市が目指す地域医療体制の将来像などに認識を深め、倉成淳市長



地域医療などをテーマに倉成淳市長（左）と意見を交わす生徒たち

らと意見を交わした。

生徒会執行部の1、2年生11人が参加した。同プロジェクトチームの市職員が、デジタル技術を活用し医療施設をネットワークで結ぶ医療体制の構想を紹介。出産できる施設がない同市の周産期サポート機能や、検討中の新病院建設の考え方を説明した。

生徒からは「市の妊産婦支援は充実しているけれど、(お産ができる)北上や一関はやっぱり遠く感じる」といった率直な意見が出た。

デジタル化推進を不安視する声もあったが、倉成市長は「便利だと考えてほしい。デジタル技術は人口の少ない地域のためにある」と説いた。

生徒会長の2年相沢雅楽さんは「新病院はまちづくりに関わり、患者さん以外の市民も交流できる場になればいい」と期待した。

市の重要課題解決を目指す同プロジェクトチームは今月から、市民に取り組みを発信し、意見交換する出張懇談会を開催している。